

広島城の桜も今を盛りに咲き誇り、万物に精気みなぎる今日の佳き日、PTA 会長 河野智之様をはじめ、本校に縁のある多くの方々のご臨席を賜るとともに、多数の保護者ご家族の皆様のご列席のもと、広島市立基町高等学校第66回入学式を挙行できますことを衷心より感謝申し上げます。

ただいま、入学を許可いたしました355名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。私たち教職員と二、三年生の生徒は、皆さんの入学を心より祝福し、歓迎いたします。

バブル経済が終焉して、早くも20年が経過しました。この間、日本は成熟社会への転換を迫られ、多くの課題に直面してきました。その最中、昨年の3.11東日本大震災とそれに続く原発事故は、今後の国のあり方を根本的に問い直す契機となり、今、日本は時代の大きな転換点にさしかかっています。明治維新は、薩摩・長州を中心とした若き志士の力によって、成し遂げられました。また、戦後の成長社会を牽引してきたのは、団塊の世代と呼ばれる若者たちでした。日本に限らず、時代の変化を起し、新しい社会を構築してきたのは、いつもその時代の若者たちです。今こそ、既存の価値観やしがらみにとらわれることなく、柔軟な思考力と活力をもとに、革新的な価値の創造を行うことのできる若者が必要なのです。本校生徒には、新しい日本を築いていく創造者としての大きな期待がかけられています。その期待に応えられる人物となるため、3年間の高校生活を通じて、次の2つのことを実践してください。

一つ目は、それぞれの適性を発見し、将来、自身の力をどのような分野で活かしていくのかを考え、高い志を立てることです。皆さんは、生まれてから15年あまりたちますが、自分自身のことをどこまで知っているのでしょうか。論語の一説に、「今、女（なんじ）は画（か）れり」という孔子の言葉があります。これは、弟子の一人が「私が先生の教えについていけないのは、力が足りないからなのです」と、いいわけをしたとき、孔子が、「ほんとうに力が足りない者というのは、やれるだけやって、途中で力尽きてしまう者をいうのである。ところが、今、おまえの場合は、実行もしないで、はじめから自分の能力に限界をきめてかかっているのだ」と、弟子を戒めた言葉です。皆さんには、まだ自分自身でも気付いていない能力や適性があります。自分の可能性を過小評価したり、固定的に捉えたりするのではなく、苦手と思い込んでいる分野をはじめ、様々な学問や芸術文化、そしてスポーツに、全力で取り組んでください。そうすることで初めて、自らの本当の姿や能力を発見することができます。また、それは幅広い見識や教養を身につけることにも繋がり、将来、独創的な価値の創造をなすためになくてはならない基礎となります。

このように、自分自身を真摯に探求していけば、その過程で自分の力を活かすべき分野や将来の目標が見えてきます。自己の利益のみを追求する目標は「志」とは言えません。社会や人類のために自分の命を活かす高い志を立ててください。その「志」は、必ず皆さんの命を輝かせるとともに、結果的に皆さん自身に何よりも大きな喜びと幸福をもたらします。

二つ目は、その「志」を実現するために、今、何を準備すべきかを考え、粘り強く実行することです。高度経済成長期には、「マニュアル通りにまじめに働く人」が、大勢いて社会が成り立ちました。しかし、現代ではどの職場でも、潜在している問題をいち早く発見し、状況変化に即応して、問題解決に向け主体的に行動できる人を必要としています。さらには、グローバルな視点と知的創造力によって、人類の持続可能な発展に繋がる新発

見や新技術、新制度などの新しい価値を生み出す人材を求めています。したがって、皆さんがこれから行うべき学習は、効率よく理解できるように他人が加工してくれた教材を記憶するといった受け身の学習ではありません。学習の結果だけを鵜呑みにしたり、マニュアル的な答えの出し方のみを習得したりするのではなく、成り立ちや背景を探り、自ら思考して理解していくことが重要です。中学校までとは異なり、学ぶ内容も高度になり、量も格段に増えます。一日も早く、基町高校生らしい学習態度を身につけ、工夫を重ねて自分に合う学習方法を開発してください。

また、現代社会の複雑な課題の解決には、決まった正解はありません。一人の天才的な人物ではなく、様々な分野の専門家がチームを作って課題に取り組み、ベストプラクティス、すなわち最優良の事例に学びながらも、よりふさわしい解を探っていくことが求められます。本校には数多くの学校行事があり、ほとんどの生徒が部活動を行っています。社会に出てリーダーとなる人材をめざし、学校行事や部活動を通じて、コミュニケーション能力や協働する力、そして何よりも優れた人格を養ってください。

グラウンドの東端にキックボードが建っています。そこには本校の校訓「自主自律」、サブモットー「継続は力なり」という言葉が書いてあります。高い志は、粘り強く努力を継続する力となります。大きな志に向かって真摯に努力を続ける人には、必ずそれを支援してくれる仲間が現れます。壁にぶつかっても、あきらめず、仲間とともに頑張れば、必ず乗り越えることができます。本校での密度の濃い三年間を信頼できる仲間とともに過ごし、生涯の宝となる友情を育ててください。本校は、2万5千人の卒業生を輩出し、同窓生が各界で活躍されております。この同窓生の皆さんも、あなた方を見守り支えてくださいます。

基町高校のシンボルの樹木は、梧桐（あおぎり）です。校章にも、その果実と葉がデザインされています。この梧桐には古来、めでたい鳥である鳳凰がつねに来て宿り、その葉につつまれた実をついばんでいよいよ気高くなるといわれています。鳳凰は、素晴らしい人物、社会を導くリーダーを象徴しています。皆さんは、この桐茂る学園で鳳凰となっていく人たちです。今はまだ、雛かもしれませんが、卒業時にはたくましい鳳凰の若鳥となって、巣立っていくことを願って止みません。本校は近代的な校舎・施設と立地条件に恵まれるとともに、普通科普通と創造表現コースが車の両輪となって、お互いに刺激しあい切磋琢磨して成長し、多くの実績を積み上げてきた伝統ある高等学校です。皆さんは今日から、この基町高等学校の第六十六回生として、その伝統に新たな1ページを加え、自己の成長とともに、本校の益々の発展を目指してください。

終わりにになりましたが、今日まで、新入生を様々な面で支えてこられた保護者の皆様にご心からお祝い申し上げます。私たち教職員は、一丸となって指導にあたり、生徒の皆さんの高い志の確立とその実現に全力を尽くし、お子様が誇りを持って高校生活を送ることができるよう努めて参ります。保護者の皆様におかれましても、本校教育にご理解とご協力を賜りますとともに、ご家庭でもお子様が充実した学校生活を送るために必要なご指導をいただきますようよろしくお願いいたします。

最後に、本日ご臨席賜り、新入生の前途を祝福してくださいましたご来賓の皆様、そして、ご列席の保護者ご家族の皆様にご再度、篤くお礼を申し上げ、式辞といたします。

平成二十四年四月七日

広島市立基町高等学校
校長 荒木 猛